

1. 平成31年度 朱雀中学校 学校教育目標

**実社会に生かせる課題解決力と、
人と交わるコミュニケーション力をもち、
自分の未来を創造する生徒を育てる**

<教職員がめざすこと>

課題解決力とコミュニケーション力を育み、未来を創造する生徒とその集団を育てる

新年度を迎えて気持ちを新たに、生徒一人ひとりを大切にする朱雀中学校の指導を、全校教員に願いたい。

平成28年度「よんきゅう絆プロジェクト」（4中9小小中一貫教育）が立ち上がり、3年が過ぎた。このプロジェクトで企画した教育構想および内容は、引き続き実践していく。「よんきゅう絆プロジェクト」では、児童生徒に付けたい資質・能力を「課題解決力・コミュニケーション力」としている。

本校の教員には、この資質・能力を育むことを目標として取り組んでいただきたい。この目標は、「よんきゅう絆プロジェクト」のめざすべき生徒像「未来を拓きしなやかに生きる子どもの育成」につながっている。ここで言う「コミュニケーション力」とは、単に談笑をすることではない。課題を解決するために、自分の意見を伝え、他者の考えを聞き話し合いのできる力である。進路保障を鑑み、生徒の学力の向上はもちろんであるが、「道徳の時間」を充実させ、思いやりの心を持ち、生徒が生徒を律することのできる集団の育成を図っていく。さらには、生徒会を中心に自治活動が行える集団の育成をめざし、教員が生徒とともに「朱雀愛」を育てていきたいと考えている。

この数年、学校全体が落ち着いた状態と言えるが、個々の生徒を見たとき、さまざまな課題をもっていることがわかる。課題解決のためには、教員一人ひとりが「チーム朱雀」の一員としての自覚を持ち、情報共有をしつつ、「チーム」として対応していくことを願う。

2. 具体的な実践として

- ① 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり
 - ・「9年間の『学び』」をふまえ、全ての教育活動の基本となる「授業」を構築する。
 - ・教科会を軸に授業の工夫を検討し、研究授業を通して指導力の向上を図る。
- ② 「他者との関わりを大切に、正しく判断し行動できる生徒の育成」
 - ・「9年間の『育ち』」をふまえた生徒指導を実践する。
 - ・生徒が生徒を律することのできる生徒集団を育成する。
- ③ 「一人ひとりを大切にする」の共通理解と実践
 - ・3年間を見通した人権学習を構築し、生徒の人権意識の醸成と思いやりの心を育てていく。
 - ・「道徳の時間」を充実させ、「規範意識」を醸成するとともに「心」を育てる。
- ④ 「見逃さない指導」と「指導しきる」の徹底、および情報の共有による生徒指導の実践
 - ・情報を共有して素早い対応を心掛け、「チーム」として生徒指導をすすめていく。

3. <生徒がめざすこと>

他者との関わりを大切に、自ら進んで行動し、未来を創造していく中学生となる